

# ユニバーサルスポーツの聖地化(庵原エリア) (事業)

## 《0.基本認識(背景)》

### これまでの静岡市の取組み

静岡市では、『第2期静岡市スポーツ推進計画』の基本施策に「障がいのある人のスポーツ活動の推進」を掲げ、障がいのある人でも参加できるスポーツ事業を充実させ、心身の健康を維持するとともに、障がいのある人となない人が一緒にスポーツを行うことで、スポーツを軸とした共生社会の実現に取り組んできた。

- ・全国障がい者スポーツ大会選手選考/派遣
- ・障がい者スポーツ教室事業の実施
- ・パラバドミントンサポートシティ推進事業の実施  
日本パラバドミントン連盟との「パラバドミントンサポートシティに係る覚書」の締結(R2～)
- ・車いすバスケット男子日本代表合宿の誘致

### パラスポーツを取り巻く課題

#### <社会的意義と時代性>

・パラリンピックなどの注目大会の開催を背景に、パラスポーツへの関心が高まっている社会情勢にある。(1960年ロンドン五輪で初めてパラリンピックが開催、その後1964年東京五輪に繋がり、2024年パリ五輪では、オリンピックに引けを取らない高い注目を集めており、社会の関心が非常に高まっている。)

#### <パラスポーツの課題>

- 【1】障がい者に配慮された設計のスポーツ施設が少ない。
- 【2】アクセスの壁:障がい者にとっては「移動」そのものがハードル
- 【3】天候による影響を受けやすい
- 【4】障がい者スポーツイベント・大会の開催場所・機会の不足

### 庵原エリアの持つポテンシャル

・エリア内に「IAIパラスポーツパーク」、「清水ナショナルトレーニングセンター」、付近に「清水清見潟スポーツセンター」が存在し、スポーツの普及・振興に取り組まれている。

・距離的にも10分圏内で結ばれるコンパクトなエリアであり、かつ、車移動がメインである障がい者にとって、関東圏から車で2時間以内という好立地。全国初の障がい者スポーツ推進エリアとして、聖地化のポテンシャルを有している。

## 《1.各施設の役割》

### ○清水庵原球場+屋内運動場

障がいの有無や年齢を問わず誰もが安心して利用できる、多目的屋内スペース。  
パラスポーツやリハビリスポーツ、ジュニア世代のトレーニングや遊びによる体づくりなど幅広く活用。

### ○清水清見潟公園スポーツセンター

アリーナ・プールを兼ね備えた屋内複合施設。誰もが利用できる施設。

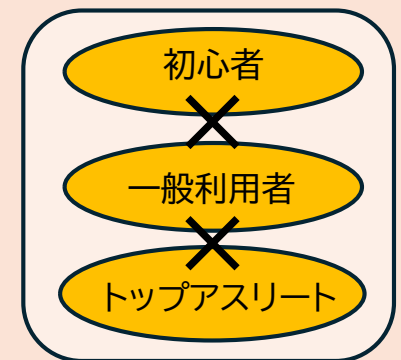
### ○IAIパラスポーツパーク

バリアフリー設備を備えた競技用施設。大会・イベント開催と共に、地域と連携した啓発活動を展開。

### ○清水ナショナルトレーニングセンター

トップアスリートの育成拠点。ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、誰もが利用できる施設。

## 各種パラスポーツをエリア内で補完可能に



## 《2.将来像》

当該エリアを中心に面的に整備することで、年間を通じてパラスポーツの大会・教室・合宿が定着する。

市民の共生意識の醸成、次世代教育への効果が創出される。

清水は「競技者だけの場」ではなく、「誰もが参加できるスポーツ文化(ユニバーサルスポーツ文化)の発信地」となる。

インクルーシブな社会のモデル都市として、スポーツと健康、福祉、観光、教育を融合させた地域活性化にもつながる。



# ユニバーサルスポーツの聖地化（事業）

## 清水区庵原エリアの拠点スポーツ施設

### ちゅ〜るスタジアム清水

設備：本球場、第二球場、屋内運動場

#### 対応を目指すパラスポーツ：

身体障がい者野球、車いすソフトボール、フットソフトボール、障がい者サッカー（CP、アンプティ、デフ、ブラインド、ID、ソーシャル）  
※サッカー競技も可能になるため、他2施設と連携した大会開催等が可能

### IAIパラスポーツパーク

設備：全天候型屋根付きコート、屋外人工芝コート

### 巴飯店

#### 対応可能なパラスポーツ：

ボッチャ、サッカー（電動車いすサッカー、ブラインド、ID、アンプティ、デフ、ソーシャル、CP）、車いすバスケ など

新東名  
「清水いはらIC」

ちゅ〜る  
スタジアム清水

清水ナショナル  
トレーニングセンター

IAI  
パラスポーツパーク

東名高速  
「清水IC」

### 清水ナショナルトレーニングセンター

設備：アリーナ、芝グラウンド、プール、ジム、宿泊施設等

#### 対応可能なパラスポーツ：

アーチェリー、車いすテニス、車いすラグビー、ゴールボール、シットイングバレーボール、卓球、バドミントン、パワーリフティング、陸上競技、バレー、ブラインドラグビー、パラダンススポーツ、ローリングバレーボール、ロールボウルズ、モルック、フライングディスク など

### 清水清見潟公園スポーツセンター

設備：アリーナ、プール、トレーニング室、軽運動室

#### 対応可能なパラスポーツ：

車いすバスケ、車いすテニス、ボッチャ、車いすラグビー、ゴールボール、シットイングバレーボール、卓球、バドミントン、パワーリフティング、バレー、ブラインドラグビー、パラダンススポーツ、ロールボウルズ、モルック、テコンドー、水泳

清水清見潟公園  
スポーツセンター

さかい珈琲 清水店

秋葉山公園

清水JCT

清水富士宮線

庵原町

山原堤

山切

山切ゴルフガーデン

池平古

草ヶ谷

東海



# 静岡市におけるパラスポーツの推進

## 《1. 現状と課題》

### (1) ハード(施設・設備)

- ・市内・県内に障がい者専用または優先の公共スポーツ施設がない。
- ・各スポーツ施設のバリアフリー対応に差があり、地域や競技種目にばらつきが生じている。
- ・大会を誘致する際の競技施設・宿泊施設の数が不足しており、効果的な誘致に至っていない。

### (2) ソフト(人材・交流)

- ・県内のパラスポーツ認知度は96.8%で、全国調査結果の72.4%を大きく上回り、認知度は高い状態である。ただし、高い認知度に対してパラスポーツに関心がある人は48.2%(2022年:53.2%)と低い結果となっている。(2024年度静岡県アンケート調査結果から)
- ・関心がない主な理由として「パラスポーツを身近な場所でやっていない」、「スポーツ自体に興味がない」、「身近にパラスポーツに関わっている人が少ない」などが挙げられており、「知っている」から「関わる」への接点が身近な場所がないことが課題となっている。

### (3) 組織(機能・支援)

- ・スポーツをしたいと思っている障がい者の人数や希望種目、整備が必要な環境等のニーズを把握できていない。
- ・パラスポーツを始めたい人に対する情報の集約・発信ができておらず、相談する場所もない。
- ・支援が十分でなく、継続的な活動や仲間づくりができる環境に乏しい。

## 《2. 外的環境》

- ・静岡県における障害者スポーツセンター機能の整備に向けた基本構想(2024年2月)
- ・IAIパラスポーツパーク開業(2024年12月)
- ・静岡県における障害者スポーツセンター基本計画(2025年2月)

## 《3. 今後の取組》

### (1) パラスポーツの「受け皿」となる拠点の整備(ユニバーサルスポーツの聖地化)

### (2) 所管施設のバリアフリー化の推進

所管施設の改修にあわせ、バリアフリー化を進める。

【効果】 誰もが安心して利用できる環境が整い、市民と競技者、支援者との接点づくりや交流の機会の創出につながる。加えて、施設の利便性の向上により、指導者・支援者の参画促進や活動機会の拡大が期待される。

### (3) 障がい者スポーツの下支えとなる体制構築

指導機能(個別指導、各種教室)、相談機能(スポーツ相談、福祉相談)、ハブ機能(情報収集・発信、人材育成、ネットワーク)等を有する「(仮称)静岡市障がい者スポーツ協会」の設立を支援する。

【効果】 身近にスポーツに取り組める場が確保され、生活の質(QOL)の向上や孤立感の解消、仲間とのつながりの創出が期待される。パラスポーツへの理解が深まり、インクルーシブなスポーツ文化を形成できる。

➡ 目指す姿 「誰もが、いつでも、どこでも、スポーツに参加できる共生社会の実現」